

令和3年度なら食と農の魅力創造国際大学校評価シート

令和4年3月31日

1 学校教育方針

なら食と農の魅力創造国際大学校では、これまでにない実学教育で、生産・調理・加工・流通などを担う次世代の「食」と「農」のトップランナーの育成を目指す。

(1) フードクリエイティブ学科

農業・農作物に関する知識を持った「食の担い手」の育成を目指す。

(2) アグリマネジメント学科

高度な農業技術があり農業経営センスの優れた「農の担い手」の育成を目指す。

2 本年度に取り組む重点目標

(1) 情報発信等による入学生の募集活動

(2) 学生教育の充実

(3) 開業・就農・就職支援の強化

(4) 県内従事者への支援

3 評価項目と取組み状況

重点目標：(1) 情報発信等による入学生の募集活動

達成度の基準	
A 十分達成できている	100%以上
B 概ね達成できている	80%以上～100%未満
C やや不十分である	60%以上～80%未満
D 不十分である	60%未満

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の意見
両学科共通	<p><現状> 近年の入学生数はフードクリエイティブ学科では、令和2年度が14名、令和3年度が20名、令和4年度が12名(予定)である。アグリマネジメント学科においては、定員を上回る出願者を確保しているが、専業農家の後継者の入学率が15%と低い状況。</p> <p><課題> 本校の強みである実践的な教育内容、卒業後の進路等を積極的にPRし、学校の認知度向上と学生募集を強化していくことで、フードクリエイティブ学科の学生を確保していく必要がある。また、アグリマネジメント学科では、安定した出願者を確保できているが、専業農家の後継者の入学者を確保する必要がある。</p>	広報活動	<p>○関係機関との連携やその他メディアを活用したPR活動 入学試験案内や各イベント等の案内を県広報誌へ掲載する。また、メディアを活用したPRを行う。 【評価指標】 ・県広報誌(県民だより奈良)掲載 10回</p>	<p>○関係機関との連携やその他メディアを活用したPR活動 入学試験案内や各イベント等の案内を県広報誌へ掲載を行った。また、メディアを活用したPRを以下のとおり行った。 【実績】 ・県広報誌(県民だより奈良)掲載 8回 ・奈良テレビにてCM放送 65回(11月～1月)</p>	B	<p>・県民だより奈良は、多くの県民の目に触れるため有効なPRツールとなることから、今後も継続して掲載を行う。また、専業農家の後継者の育成を図るために農家向け情報誌への掲載を検討する。</p>	<p>・フードクリエイティブ学科におけるポスター等については、学生の写真を掲載(実習風景等)するのも良いが、作品の写真(料理や菓子等)を載せこのような物が作れるとPRした方が高校生には好印象だと考える。</p> <p>・アグリマネジメント学科においては、後継者育成はもとより、非農家出身者の新規就農を促すための牽引役となってほしい。また、学校紹介パンフレットには高校卒業生の写真や進路状況を掲載していただいており、明るい色調で内容や構成も分かりやすい。</p> <p>・様々なツールを利用し、PR活動に努力されているように感じる。農業者がよく目にする情報誌などへの掲載を検討してはどうか。</p> <p>・広報だけではなく卒業生のネットワーク、卒業してからも技術勉強会やさまざまなバックアップがあるなど幅広くサポートしている面をPRしてはどうか。</p> <p>・民間専門学校の広報手段(例、YouTubeなど)を活用し、学校生活や、簡単なお料理クッキングなども配信することは現代における身近なツールとなってよいのではないと思う。</p>
			<p>○パンフレット等資料を活用したPR活動 学校紹介パンフレット及び学生募集ポスター等を各関係機関へ配布する。また、高校生向けにDM発送を定期的に行う。 【評価指標】 ・令和3年度版学校紹介パンフレット、学生募集ポスター及びオープンキャンパス用チラシの配布 1回/年 ・オープンキャンパス案内等のDM発送 6回/年</p>	<p>○パンフレット等資料を活用したPR活動 学校紹介パンフレット及び学生募集ポスター等を各関係機関へ配布した。また、高校生向けにDM発送を定期的に行った。 【実績】 ・令和3年度版学校紹介パンフレット、学生募集ポスター及びオープンキャンパス用チラシの配布 1回/年 ・オープンキャンパス案内等のDM発送 6回/年 複数のツールを活用したPRにより、コロナ禍でありながらも、オープンキャンパスは例年並みに参加者があった。</p>	A	<p>・学校の認知度を高めるため、引き続きパンフレット及びポスター等を各関係機関へ配布する。また、県内高校出身の学生が少ないことから、DM発送については、送付内容を検討し、県内の高校生を中心にDM発送を行う。</p>	
			<p>○SNS等を活用したPR活動 フェイスブック及びインスタグラムを活用し、PRを充実させる。 【評価指標】 ・フェイスブック及びインスタグラムでの投稿 11件/月</p>	<p>○SNS等を活用したPR活動 フェイスブック及びインスタグラムにて89回の投稿をし、情報提供やPRを行った。 【実績】 ・フェイスブック・インスタグラムでの投稿 9件/月(令和4年1月31日時点) ・インスタグラム広告 2ヶ月間掲載(12月～1月)</p>	B	<p>・フェイスブック及びインスタグラムは、現代における身近な情報ツールであるため、引き続き情報提供やPRのために投稿を行う。また、インスタグラム広告の掲載については、2ヶ月間の実施だったので、長期間の掲載を検討する。</p>	
			<p>○公共交通機関におけるPR活動 近郊の主要駅等に学校紹介の看板を設置し、多くの人の目にふれるPRを行う。 【評価指標】 ・近郊の主要駅等に学校紹介看板の設置 7件</p>	<p>○公共交通機関におけるPR活動 近郊の主要駅等7件(近鉄奈良駅構内、大和西大寺駅構内、大和八木駅構内、橿原神宮前駅構内、大阪難波駅構内、近鉄鶴橋駅構内及び阿部野橋歩道橋)に看板を設置し、多くの人の目にふれるPRを行った。また、奈良交通のバス車内にてデジタルサイネージの設置を行った。 【実績】 ・近郊の主要駅等に学校紹介看板の設置 7件 ・奈良交通バス車内サイネージ設置 1件</p>	A	<p>・今後は、費用対効果を考え、近郊の主要駅等に看板設置を行うのか、別のPR活動と比較し検討する。</p>	
			<p>○学校案内・学生募集PR活動 県立施設や商業施設、各種イベント等で、学校紹介及び入試情報等のPRを行う。 【評価指標】 ・県立施設 1回/年 ・大型商業施設 1回/年 ・食に関するイベントへの参加 4回/年</p>	<p>○学校案内・学生募集PR活動 以下の2ヶ所で、学校紹介及び入試情報等のPRを行った。 【実績】 ・奈良県立図書館情報館 1回(9月27日～10月3日) ・イオンモール橿原 1回(12月4日～12月5日) ・今年度計画していた奈良フードフェスティバル、奈良のおいしい食フェスタ等については新型コロナウイルスの影響により、開催はすべて中止となった。</p>	A -	<p>・本年度は、新型コロナウイルスの影響で、催しを実施する回数が少なかったが、多くの人が集まる図書館や商業施設でのPR活動を行うことで、学校の認知度向上等につながることから、来年度も状況に応じ継続する。</p>	

重点目標:(1)情報発信等による入学生の募集活動

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の意見
両学科共通			<p>○学校訪問 県内の高校(進路指導担当教諭)訪問を実施し、NAFICの概要や魅力、卒業後の進路等の説明、意見交換を行い本大学のPRを行う。 【評価指標】農業高校等入学実績のある県内17高校の訪問</p> <p>○進路ガイダンスの参加 県内で行われている進路ガイダンス等に参加し、本大学校に興味のある入学希望者にNAFICの魅力などを説明、意見交換を行う。 【評価指標】県内外ガイダンス 20回</p>	<p>○学校訪問 【実績】農業高校等入学実績のある県内17高校の訪問</p> <p>○進路ガイダンスの参加 5月上旬～1月下旬に行われた進路ガイダンスに22回参加し、当大学のPRした。 【実績】県内外ガイダンス 22回</p>	A	<p>○学校訪問 ・高校訪問については、コロナ禍の中、在校生・卒業生出身校を中心に計画的に実施することができたが、令和4年度入学予定者には県内高校生が含まれておらず次年度の課題である。 ・次年度は県内の訪問校を増やし、県内高校出身の入学予定者を確保する。</p> <p>○進路ガイダンスの参加 次年度も委託業者と連携し、計画的に参加する。</p>	
			<p>○学校見学会 高校生の夏休み期間中に、NAFICの概要説明と施設見学を行う学校見学会を開催する。 【評価指標】夏休み学校見学会の開催 7日間/夏休み期間</p>	<p>○学校見学会 【実績】夏休み学校見学会 5日応募あり/夏休み期間</p>	B	・継続して実施	
フードクリエイティブ学科		募集活動	<p>○オープンキャンパス NAFICのPRを目的に、実習や講義の体験を行うオープンキャンパスを開催する。 【評価指標】オープンキャンパスの開催 10回/年</p> <p>※オープンキャンパスに参加できない方へ、オンラインオープンキャンパス・学校見学相談会(夜の部・金曜日19:00-20:00)を実施することとしている。</p>	<p>○オープンキャンパス 定員確保のため、一般入試(後期)に向け1月15日追加開催 【実績】計11回開催</p> <p>※オンラインオープンキャンパス 3回 学校見学相談会(夜の部) 希望なし</p> <p>・計画通り活動を実施することができたが、令和4年度入学予定者数が定員に満たなかった。</p>	A	<p>・PRを強化し、継続して実施。 ・オンラインオープンキャンパス及び学校見学会(夜の部)の開催についてはSNSなどで周知の機会を増やすなどPRに務める。</p>	<p>・教育計画では、高度な調理技術や座学の授業で既に知識がある料理人でも、とても興味深い素晴らしいカリキュラムだと思われる。貴校を広く認知いただき、社会人経験者も十分学べ、食のトップランナーを育成する県立の学校であるというアピールも同時に出していくのが良いのではないか。</p> <p>・広く知って頂くには物販であったり、地域の皆さんにNAFICの生徒が作った商品、料理であったりを口にしていただく機会があればよい。</p>
			<p>○連携協定校との活動 協定締結校の磯城野高校の学生に対して体験授業を行うなどの取組を行い、当校の魅力を伝える。 【評価指標】体験授業の開催 2回/年</p>	<p>○連携協定校との活動 ・7/29磯城野高校シェフコース実習付き体験授業実施 ・1/28磯城野高校パティエコース体験授業実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止 【実績】1回実施</p>	A —	・継続して実施	<p>・連携協定校としてのつながりは、農業高校と農業現場とをつなぐ良い機会となるとともに非農家の高校生が就農を目指す大きなきっかけとなっている。</p> <p>・連携協定校については、1校だけではなく、他の学校との連携も検討しても良いのではないか。</p>
アグリマネジメント学科			<p>○オープンキャンパス NAFICのPRを目的に、カリキュラム紹介や実習体験を行うオープンキャンパスを開催する。 【評価指標】オープンキャンパスの開催 6回/年</p>	<p>○オープンキャンパス 5月上旬から3月上旬まで6回開催した。参加者は、令和2年度76人→令和3年度117人と増加した。 【実績】オープンキャンパスの開催 6回/年</p>	A	・継続して実施	
			<p>○連携協定校との活動 協定締結校の磯城野高校の学生に対して体験授業を行うなどの取組を行い、当校の魅力を伝える。 【評価指標】体験授業の開催 1回/年</p>	<p>○連携協定校との活動 1/25に果樹コースの学生に対して当校で体験授業を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。 【実績】体験授業の開催 中止</p>	—	・野菜コースや花コースの学生に対しても体験授業を実施し、さらに当校の魅力をPRする。	

重点目標:(2)学生教育の充実

学科	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の意見	
フードクリエイティブ学科		<p><現状> 調理経験がない学生が多く、また年代の幅も広いなど、学生が多様化し、卒業後の進路も開業希望に加え、レストランやホテルへの就職も増加している。</p> <p><課題> 飲食業界のプロになるには、食に関する幅広い知識と実践力が必要。このため実践実習やあらゆる分野の専門家によるカリキュラムを設定するとともに、高いプレゼンテーション能力の向上が必要。 また、随時、学生の多様化や社会情勢等の変化に応じた教育内容への見直しが必要である。</p>	<p>○実学を重視した授業の充実 【評価指標】()内は総授業時間に占める割合 1年生調理関連実習 730時間(53%) 2年生調理関連実習 856時間(72%)</p> <p>○専門家による授業の充実 【評価指標】()内は総授業時間に占める割合 1年生外部講師授業時間 362時間(26%) 2年生外部講師授業時間 250時間(21%)</p>	<p>○実学を重視した授業の充実 1年生はカリナーアート(ベーシック・プラクティス・クリエイション)、オーベルジュ実習などを実施 2年生はカリナーアート(プラクティス・アドバンス)、プロジェクト実践実習などを実施 【実績】()内は総授業時間に占める割合 1年生調理関連実習 730時間(53%) 2年生調理関連実習 856時間(72%)</p> <p>○専門家による授業の充実 1年生はマネジメント基礎、フードビジネス・ブランニング基礎、マーケティング入門、外国語Ⅰなどを受講 2年生はフードビジネス・ブランニング演習、フード・レストランデザイン、フードパブリシティ、外国語Ⅱなどを受講 【実績】()内は総授業時間に占める割合 1年生外部講師授業時間 362時間(26%) 2年生外部講師授業時間 250時間(21%)</p> <p>・学びの集大成として、学生自ら学生レストランの企画運営を行った。 (1年:進級レストラン、2年:卒業レストラン)</p>	A	<p>・今年度、1年生はカリナーアート(プラクティス)において、反復練習の時間を新たに設け、着実に基礎技術を習得できた。今後は、調理実習で製作した結果の振り返りを各自ができるよう改善していきたい。</p> <p>・飲食業界で活躍する専門家による外部講師の授業については、今後も引き続き授業を継続する。</p>	<p>・調理実習を通し学生のスキルアップが望める。また、外部講師の話を聞くことにより学校の学習との違いなども理解でき、非常に良い。これからも学生ファーストで望んでほしい。</p> <p>・日本は特に食の多様化が進み道具の進歩、また食べる側の選択肢も増える中、基礎をしっかり学ぶという事はとても大事な事であると考える。</p> <p>・社会情勢や昨今の状況も考慮しながら、これからの未来の食について考えていくことも必要であると思われる。</p>
		<p>○発表行事を活用した学生の資質向上 奈良で輝くマイスター賞及び世界へ羽ばたくベストマイスター賞の奨励制度を活用して、開業や海外研修を予定している学生の資質向上を図る。 【評価指標】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 1名選定</p>	<p>○発表行事を活用した学生の資質向上 【実績】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定(応募5名) 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 応募者なし</p> <p>・5名が開業計画を作成し、発表した。</p>	C	<p>・今後も授業と運動させながら、継続実施する。</p>		
		<p>○カリキュラムの見直し 調理に初めて触れる学生もいることから、1年では基礎的な調理技術・知識の習得を目的としたカリキュラム構成とする。 2年生では自ら考え、卒業後の進路に応じたカリキュラム構成とする。 【評価指標】 進路に応じた「コース」の設定</p>	<p>○カリキュラムの見直し 【実績】 2年生において卒業後の進路に応じて3つのコースを設け、コースごとのカリキュラム構成とした。 【テクニカルコース・5名】【マスターコース・2名】【ゼネラルコース・5名】カリキュラムを見直した事により、希望する進路に就業することができた。</p>	A	<p>・カリキュラムを見直した事により、進路に応じ、各学生が自らの課題を設定する事ができた。今後も引き続き各学生の進路志向に応じた指導を進めていく。</p>		
アグリマネジメント学科	学生の資質向上	<p>○実学を重視した授業の充実 実学を重視した授業を行うことにより学生の資質向上を図る。 【評価指標】()内は総授業時間に占める割合 1年生農業実習896時間(65%) 2年生農業実習960時間(76%) NAFIC祭・公開販売 4回以上/年</p> <p>○専門家による授業の充実 あらゆる分野の専門家や経験豊かな農業技術者によるカリキュラムを充実する。 【評価指標】()内は総授業時間に占める割合 1年生外部講師授業時間202時間(15%) 2年生外部講師授業時間114時間(9%)</p>	<p>○実学を重視した授業の充実 1年生は、野菜等専門実習や農業機械実習等の実習を実施 2年生は、先進農家での現地実習や担当ほ場での栽培実習を実施 公開販売については、4回を予定し準備をすすめていたが、新型コロナウイルス拡大により4回のうち2回は中止となった。 【実績】1年生:896時間(65%) 次年度に先進農家で6名が実践実習を予定している。 2年生:960時間(76%) 先進農家で6名が実践実習を行った。 公開販売 2回/年</p> <p>○専門家による授業の充実 1年生は、農業簿記、農業経営ビジョン、就農基礎講座など 2年生は、6次産業化プラン、海外農業情勢、おもてなし入門など 【実績】1年生:202時間(15%) 2年生:114時間(9%)</p>	A	<p>・公開販売については、今までの新型コロナ感染対策の見識を生かし可能な範囲で開催に努める。</p>	<p>・実習を通し、これからの農業に必要な環境保全型農業やGAP、また、最新の機械設備等を学ばれており就農・就職に役立つ授業になっており学生の将来が楽しみである。</p> <p>・授業における実習の割合が多いことやインターンシップでの体験や研修が充実していること、生産から販売まで学習できることが大変有効だと考える。</p> <p>・幅広い年齢層の生徒によって成績の評価も異なると思われるが、生徒の理解度も考慮してカリキュラムの見直しも必要かと思われる。</p> <p>・SDGsが目目される中、カリキュラムの改善により一層取り組んでいただきたい。</p>	
		<p>○意見・研究発表による学生の資質向上 研究発表(2年生)、意見発表(1年生)を実施することにより、進路の進捗状況を学生、先生と共有することにより学生の資質向上につなげる。なお、発表の優秀者は、東海・近畿ブロック農業大学校学生研究・意見発表会への当校代表として選出する。 【評価指標】 研究発表 2回(2年生) 意見発表 1回(1年生)</p>	<p>○意見・研究発表による学生の資質向上 研究の中間発表会、意見発表会を実施し、最上位評価者に東海・近畿ブロック農業大学校学生研究・意見発表会に当校代表として選出を行った。両行事とも活発な質疑応答がされた。発表会の結果、研究発表の部で当校学生が最優秀賞を受賞した。 【実績】研究発表 2回実施 意見発表 1回実施</p>	A	<p>・引き続き実施する。</p>		
		<p>○カリキュラムの見直し 【評価指標】 カリキュラム見直し会議 1回</p>	<p>○カリキュラムの見直し 「普及のガイドライン」の改正に則して、カリキュラムの変更を検討した。 【実績】見直し会議 1回</p>	A	<p>・環境保全型農業のカリキュラムについては、概論中心の講義から実践農家を講師として迎えるなど、より実践的なものとする。</p>		
		<p>○時代に対応した新規技術の取組 【評価指標】 スマート農業に関する特別講義 1回 スマート農機の導入 1台</p>	<p>○時代に対応した新規技術の取組 アシストスーツに関する特別講義を実施し、レタスやキャベツの定植で活用したところ、学生の評価は高かった。 【実績】特別講義 1回 アシストスーツ1台導入</p>	A	<p>・アシストスーツについては、イチゴでの作業改善効果を検証する。 ・次年度以降は、ドローン防除やロボット除草機等の講義も検討する。</p>		
		<p>○農福連携の取組 ユニバーサルな社会に向けた農福連携への積極的対応を行う。 【評価指標】特別講義 1回 学生現場視察 1回</p>	<p>○農福連携の取組 農福連携を学ぶための特別講義を実施し、就職希望の学生に対する関連事業体の紹介。社会福祉法人2法人に各1名農業部門担当として就職する予定。 【実績】特別講義 1回実施 学生現場視察 1回実施</p>	A	<p>・社会福祉法人の農業参入は今後も増加すると見込まれるため、今後も特別講義として引き続き実施する。</p>		
		<p>○GAP認証の取組 GAPの取組を継続させるため、現在認証を取得しているJGAPのトマトについて認証を更新する。新たにイチゴにおいてもJGAP認証を取得する。 【評価指標】 JGAP認証維持更新:トマト JGAP認証品目の拡大:1品目(イチゴ)</p>	<p>○GAP認証の取組 2月8日にトマトのJGAP調証維持審査及びイチゴの新規認証を受検した。 【実績】JGAP認証維持更新:トマト JGAP認証品目の拡大:1品目(イチゴ)</p>	A	<p>・今後は現在の認証を維持するとともに、まだGAPの取組を導入していない他作物にも認証の有無に拘らず、作物管理については、GAPの管理手法を取り入れた学生指導を行っていく。</p>		

重点目標:(3)開業・就農・就職支援の強化

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の意見
フードクリエイティブ学科	<p><現状> これまでフードクリエイティブ学科では47名の卒業生を輩出している(1~4期生)。 開業が26%(準備中含む)、レストラン就職が30%、ホテル就職が11%、食関連企業就職が6%、親元就業が4%、その他が23%となっている。</p> <p><課題> 引き続き学生が希望する進路につくよう指導する必要がある。2年生には、開業支援情報や求人情報等を提供するとともに、定期的に進路相談を行っているが、進路の決定が遅れる学生がいる。職員間の情報を共有し早くから就職活動等に取り組むよう学生に働きかけていく必要がある。</p>	就業支援活動	<p>○開業につながるカリキュラム等の充実 1年生から一部進路に応じた選択科目を受講し、2年生で進路に応じたコース分けを行い、開業を希望する学生は「マスターコース」を選択し、コースに応じた講義を受講。</p> <p>【評価指標】 (1年)フードビジネス・プランニング実践Ⅰ 8コマ (2年)マネジメント実践 8コマ フードビジネス・プランニング実践Ⅱ 8コマ</p>	<p>○開業につながるカリキュラム等の充実 1)フードビジネス・プランニング実践Ⅰ(1年)・Ⅱ(2年) 飲食店新規開業に生かせる経営管理手法を学ぶ。 2)マネジメント実践(2年) 飲食店経営手法をベースに開業のための計画書について学ぶ。</p> <p>【実績】 (1年)フードビジネス・プランニング実践Ⅰ 8コマ (2年)マネジメント実践 8コマ フードビジネス・プランニング実践Ⅱ 8コマ</p> <p>【就業状況】 マスターコースを選択した学生は2名。1名は卒業後すぐに開業。 1名は卒業後、いったん就職して経験を積んでから開業する予定。</p>	A	・次年度も継続して開業を支援する授業を実施する。	<p>・開業や就職に向けて、手厚く指導されている。</p> <p>・農業法人との交流会を企画するなど、学生の進路意識を高めるための手法が具体的であり、効果的である。</p> <p>・卒業生と在学生との交流の機会を設け、就業に向けての参考となる意見を聞ける場が必要ではないかと思う。</p>
			<p>○就職につながるカリキュラム等の充実 1年生から一部進路に応じた選択科目を受講し、2年生で進路に応じたコース分けを行い、就職を希望する学生は「テクニカルコース」「ゼネラルコース」を選択し、コースに応じた講義を受講。</p> <p>【評価指標】 (1年)キャリアプランニング 8コマ (2年)キャリアマネジメント 16コマ</p>	<p>○就職につながるカリキュラム等の充実 1)キャリアプランニング(1年) 卒業後のキャリア形成に向け、基本となる自己理解と職業理解を深める。 2)キャリアマネジメント(2年) ビジネスマナーをはじめ、社会人基礎力を学ぶ。 就職活動において、内定を獲得する対策を学ぶ。</p> <p>【実績】 (1年)キャリアプランニング 8コマ (2年)キャリアマネジメント 16コマ</p> <p>【就業状況】 テクニカルコース・ゼネラルコースを選択した学生は10名。 全員が希望する就職先の内定を得た。</p>	A	・次年度も継続して就職を支援する授業を実施する。 併せて就職活動を支援する機会の充実を図る。	
			<p>○開業・就職支援活動の強化 資格取得・就職準備</p> <p>【評価指標】 面談 1年:5回/人 2年:3回/人 資格取得 食品衛生責任者 防火管理者 サービス接客実務検定</p>	<p>○開業・就職支援活動の強化 資格取得・就職準備 開業・就職に関する特別指導および面談のほか、資格取得に向け取り組み等を実施する。</p> <p>【実績】 面談 1年:5回/人 2年:3回/人 資格取得 食品衛生責任者(1年15名取得予定・2年10名取得) 防火管理者(1年18名取得・2年7名取得) サービス接客実務検定 【2年】2級合格率77%、3級合格率 75% 【1年】2級合格率82%、3級合格率100%</p>	A	・継続して定期的に面談を行う。	
			<p>○奨励制度を活用した就業等支援 奈良で輝くマイスター賞(就業計画を評価し表彰)及び世界へ羽ばたくベストマイスター賞(海外研修計画を評価し表彰)の奨励制度を活用して、開業や海外研修を予定している学生の就業等支援を図る。</p> <p>【評価指標】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 1名選定</p>	<p>○奨励制度を活用した就業支援 奈良で輝くマイスター賞については、5名が開業計画を作成した。プレゼン審査の結果、上位2名を選出した。世界へ羽ばたくベストマイスター賞については、コロナ禍でも応募者がいなかった。</p> <p>【実績】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 応募者なし</p>	A	・継続して実施する。	
アグリマネジメント学科	<p><現状> 平成28年度に現在のNAFICに移行し、66名が卒業した。卒業生の進路は、親元就農11%、自営就農27%、雇用就農30%、農業関連企業等就職14%、その他18%である。 兼業農家、非農家出身の学生が85%とほとんどを占めることから、就農の形態は農業生産法人等への雇用就農(29%)、自営就農(27%)が多い。 また、農業関係団体や農機具メーカー等への就職も合わせた農業関連への就職率は14%である。</p> <p><課題> さらなる就農率の向上を図る必要がある。また、2年生の学生には、就農支援情報や求人情報等を提供するとともに、定期的に3者面談や進路相談を行っているが、進路の決定が遅れる学生がいる。職員間で情報を共有し早くから就職活動等に取り組むよう学生に働きかけていく必要がある。</p>	就業支援活動	<p>○就農・就職支援活動の強化 農業関連就農・就職率の向上につなげるため、個別面談や農業法人の説明会等を実施し、早期から就農・就職意識を醸成するとともに、関係機関との連携や農業関連企業の求人情報の収集・紹介を行う。</p> <p>【評価指標】 1年生就職に向けた個別面談の実施 2回/人 農業法人等と学生の交流会開催 1回/年 就業就職フェアへの参加促進 参加8名 就職基礎講座での就職希望事業者への企業等訪問 2回/年</p>	<p>○就農・就職支援活動の強化 1年生、2年生のうち就職を希望する学生に対して、農業法人等との交流会(就活ワールドカフェ)を開催(学生25名、農業関連企業・農業法人等9社、ファンリテーター1名参加)し、進路を考える動機付けを行った。</p> <p>【実績】 1年生就職に向けた個別面談の実施 3回/人 農業法人等と学生の交流会開催 1回 就業就職フェアへの参加学生 参加8名 就職基礎講座での就職希望事業者への企業等訪問 3回/年</p>	A	・将来の進路(やりたいこと)がなかなか決まらず、就農・就職に向けた活動に取り掛かるのが遅れてしまう学生がいる。 このため、引き続き学生の進路の意向を確認しながら、就農・就職活動に取り組む動機付けを行う。	
			<p>○就農、就職に生かせる資格取得の推進</p> <p>【評価指標】 大型特殊免許、農業簿記検定等11メニュー実施</p>	<p>○就農、就職に生かせる資格取得の推進</p> <p>【実績】 11メニューの資格取得を実施した。 最も取得した学生は8メニューを取得。</p>	A	・継続して実施する。	
			<p>○奨励制度を活用した就業等支援 奈良で輝くマイスター賞(就業計画を評価し表彰)及び世界へ羽ばたくベストマイスター賞(海外研修計画を評価し表彰)の奨励制度を活用して、就農や海外研修を予定している学生の就業等支援を図る。</p> <p>【評価指標】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 1名選定</p>	<p>○奨励制度を活用した就業支援 奈良で輝くマイスター賞については、5名が就農計画を作成した。プレゼン審査の結果、上位2名を選出した。世界へ羽ばたくベストマイスター賞については、コロナ禍でも応募者がいなかった。</p> <p>【実績】 奈良で輝くマイスター賞 2名選定 世界へ羽ばたくベストマイスター賞 応募者なし</p>	A	・継続して実施する。	

重点目標:(4)県内従事者への支援

学科	現状と課題	評価項目	具体的方策と評価指標	取組経過と実績	自己評価	今後の改善方策	学校関係者評価委員の意見
フードクリエイティブ学科	<p><現状> 飲食サービス業の経営者や従事者、また将来的には経営や就業を目指す方を対象に、マネジメントやサービスなどの経営力の向上、県産食材の知識向上を目的とした短期研修(フードアドバンス研修)を実施。</p> <p>また、本校の周知を図るとともに、県内飲食サービス従事者をはじめ県民の「食」に関する知識及び調理技術を高めるため、国内外で活躍する料理人等を招聘し、公開講座を開催している。</p> <p><課題> より多くの受講者に参加してもらうよう、ニーズに応じたテーマ・講師の選定が必要。</p>	短期研修の運営	○フードアドバンス研修の開催 【評価指標】夏休み期間中に1回/年開催 募集人数10人	○フードアドバンス研修の開催 【実績】1回 開催日:令和3年8月23日(月) 講師:県畜産技術センター 副所長 本校調理担当教授 テーマ:大和牛について 修了者:12名(ホテル・レストラン11、開業予定1)	A	飲食サービス業に従事する、または予定のある方に対象を絞り、県内の飲食関係の団体を通じて周知を図った結果、定員を超える応募があった。 今後も県産食材をテーマとし、飲食サービス業の方に食材への理解を深めていただく学びの機会を提供していく。	
	公開講座の運営	○公開講座の開催 【評価指標】講師として国内シェフ、国外シェフ 各1回 計2回/年開催	○公開講座の開催 【実績】1回(国内シェフ) 開催日:令和3年12月13日(月) 1回 講師:長谷川幸太郎氏(東京・フランス料理店オーナーシェフ) テーマ:予約の取れない店の作り方 出席者数:会場参加者29名 オンライン参加17名 ・国外シェフによる公開講座については世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催を見送った。	国内A 国外-	・今後も会場参加者に制限がある可能性もあるので、オンライン配信も取り入れながら、NAFICが料理人の学びの場となるよう公開講座を継続していく。 ・国外シェフについては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら次年度以降開催の可否を見極めていく。		
	卒業生フォローアップ	○調理師免許取得支援 調理免許資格試験事前対策講座のオンライン実施 【評価指標】受講該当者13名に案内 ○開業した卒業生に対する支援 開業した卒業生の広報 【評価指標】1回/年 メニュー作り支援 【評価指標】3回/年	○調理師免許取得支援 【実績】 ・調理免許資格試験事前対策講座の受講希望者なし ○開業した卒業生に対する支援 【実績】 ・開業した卒業生を広報するパンフレットを作成・配布 1回 ・開業した卒業生に対するメニュー作り支援 3回	D A A	・調理師免許取得支援について、試行の結果、支援希望者はなかったが、継続して実施する。 ・卒業生の広報、メニュー作り支援について、継続して実施する。		
アグリマネジメント学科	<p><現状> 普及事業のガイドラインに基づく、「社会人等への研修機会の提供等」については、定年退職者等幅広い世代の就農希望者に、「アグリチャレンジ研修」、「農業機械安全使用研修」を実施し、また、当学科の授業を県民に公開する公開講座を開催している。</p> <p><課題> ・「アグリチャレンジ研修」は定員以上の申し込みがあり、定年退職者を中心に営農開始に向けた研修として効果がある。「農業機械安全研修」は、農業機械の安全使用上、継続して取り組まなければならない研修である。いずれの研修も研修生を確保しつつ継続して実施する必要がある。 ・昨年度の「公開講座」は、新型コロナ感染防止の観点から中止を余儀なくされた。オンラインを活用するなど工夫をして実施する必要がある。</p>	短期研修の運営	○アグリチャレンジ研修の実施 社会人経験者や転職者の新規就農希望者に対し、短期の研修を実施し、多様な担い手の育成を図る。 【評価指標】研修の実施 40回/年	○アグリチャレンジ研修の実施 定員20名に対して32名の応募があり人気が高い。野菜栽培を中心とした研修であり、研修生の出席率は95%と高く、20名全員が修了した。 【実績】研修の実施 40回/年	A	・多様な担い手を育成するために引き続き取り組んでいく。	<p>・研修を活かして積極的に活動されている場合もあり、研修や講座は、引き続き開催いただきたい。</p> <p>・学校外の方を対象とした研修等は、貴校の認知度を上げ、学生募集にもつながる取組であると思われるので、今後も積極的に取り組んでいただきたい。</p> <p>・就農への思いは、他の職種を経験した後や年齢を重ねて回帰することも多いと考えられる。また、農業の担い手を確保する多様なルートがあつて良いと考える。</p> <p>・農業機械の研修は、実際の営農上必要なスキルだと思われるので、継続発展させてほしい。</p>
	公開講座の運営	○農業機械研修の実施 新規就農者や兼業農業者に対し、農業機械の安全使用(トラクター、耕耘機、刈払機)のための研修を実施する。 【評価指標】研修の開催 6回/年	○農業機械研修の実施 始業点検やメンテナンスなど受講者の評価は高かった。 延べ31名が受講した。 【実績】研修の開催 6回/年	A	・継続して実施する。		
	公開講座の運営	○公開講座の実施 当校では持続可能な農業を実践するためGAPの取り組みを授業の一環として取り組んでいる。GAPの基礎及び2月に実施した維持審査及び新規審査の対応策を踏まえ、公開講座として公開する。 【評価指標】研修の開催 1回/年	○公開講座の実施 新型コロナウイルス感染防止の観点から、完全オンラインで実施。参加者は、学生、入学予定者、農業者等40名。 【実績】研修の開催 1回/年 開催日:令和4年3月2日 テーマ:GAPについて	A	・今後も社会情勢に即した公開講座を引き続き実施する。また、コロナ禍が継続することを前提に、オンラインによる参加しやすい方法を検討する。		